

# 呼吸器外科って？

- ▶ 呼吸器外科は呼吸器疾患の外科的治療に取り組む科です。
- ▶ 近年急速に増加し現在がんの死亡率第1位である肺癌をはじめとした悪性疾患から気胸や膿胸などの良性疾患まで、肺を中心とした疾患を中心に手術を行っています。
- ▶ 特に肺癌に関しては当院の呼吸器内科と連携して総合的に治療方針を決定し、治療成績の向上を目指しています。手術は早期肺癌や気胸に対しては胸腔鏡技術を取り入れ、小さな傷で病変を切除することで合併症が少なく、早期退院を目指した治療を心がけています。

# 呼吸器外科って？

- ▶ 胸腺腫や神経原性腫瘍などの縦隔疾患，膿胸などの感染性疾患，気胸などの肺嚢胞疾患などに対しての外科的アプローチも多数行っています。
- ▶ 当院の呼吸器外科は2014年に創設されたばかりの新しい科ですが，年間100例以上の呼吸器外科領域の手術を行っており，年々増加傾向です。
- ▶ 外科や心臓血管外科とも綿密に連携しており他科領域にまたがる拡大手術も積極的に行っています。

## <当科で取り扱っている疾患>

- ▶ 肺癌、転移性肺腫瘍、肺良性腫瘍
- ▶ 胸腺腫などの縦隔疾患
- ▶ 気胸などの嚢胞性疾患
- ▶ 膿胸, 肺真菌症などの炎症性肺疾患 など

# 手術風景



スコピスト 助手 術者

# Surgical Oncologistへの道

- ▶ 呼吸器外科医が治療対象とする主な疾患は肺がんです。近年肺がん患者は増加する一方であり、今後呼吸器外科医の重要度も増してくるであろうと予想しております。単に手術をして肺を切除するだけでなく、その肺がん患者さんの状態に合わせて、どのような治療方針が適切で、どのようなフォローを行うべきかを考えており、腫瘍学にも精通できます。いわばSurgical Oncologistへの道が待っているのです。
- ▶ 呼吸器内科など内科領域を考えておられる先生方でも、実際に外科的領域から勉強することは、将来の良い経験になることは間違いありません。

# 研修医の力を求む！

- ▶ 呼吸器外科の手術は主に胸腔鏡を使用しておりますが、胸腔鏡下手術は通常術者、助手、スコピスト(カメラ持ち)の3人で行います。しかし、常勤の呼吸器外科医は2人しかおらず必然的に研修医の先生方にスコピストとして参加していただいています。スコピストは手術において術者の目となる重要な役割です。外からみるのと実際に手を動かして参加するのでは学べることが全然違うので、積極的に参加してもらえ  
る研修医の先生方を求めています。
- ▶ また、外科専門医を取得するには呼吸器外科領域の手術症例の経験も必須です。呼吸器外科以外の外科領域を考えておられる先生でも十分な手術症例の集積が可能です。